沢田内科医院ニュースレター
第78号

西目屋中学校から田澤萌ちゃんが職場体験に来ました

11月６日から８日までの３日間、私の母校の西目屋中学校から田澤萌ちゃんが職場体験に来ました。将来、薬剤師になりたいと希望している萌ちゃんですので、特に薬局での仕事を体験したいと申し出がありました。ただ、薬の仕事だけでは職場体験としては不十分だと思いましたので、医院で行われている仕事を一通り体験してもらいました。

左から、あゆ、田澤萌ちゃん、ちひろ、かほ

昼ご飯を食べながらインタビューを受けました。どうして医師になりたいと思ったのかという質問にはいつも迷います。高校２年生で医師になろうと決めましたけど、理由は一つや二つではないので、中学生に理解してもらうことはむずかしい。分かりやすい理由は、後付けの理由になってしまいそうなのではっきり答えられないのです。

その中で、初めての質問があった。「仕事と家庭をどうやって両立させていますか?」と。これには参ってしまった。即座に、「両立できませんでした」と答えてしまった。私は血液の病気や悪性腫瘍の患者さんを多く診てきたので、次の日曜日に子どもたちとどこかに遊びに行こうなどという約束がまったくできなかったのです。患者さんが急に具合が悪くなって、約束を守ることができなかったので、約束ができなかったのです。家事もほとんどしてきませんでしたし。「そんな状況で育った子どもたちも医師になったので、それなりに理解してくれたんだと思います」とも付け加えました。

小堀未希さんが放送大学を卒業

放送大学は通信制の大学で、高校を卒業していれば誰でも入学できます。もちろん、大学ですから特定の教科を勉強して試験に合格し、卒業に必要な124単位を取得する必要があります。以前は「学位」というと「博士」を意味していましたが、現在は大学を卒業した場合に授与される「学士」も「学位」としています。ですから、卒業式という言葉を使わず、卒業式のことを「学位記授与式」という大学が多いようです。

弘前市医師会看護専門学校は、３年前に専修学校になりました。各種学校と比べ、専修学校は講義時間数や実習時間数、学校の設備や教員組織などの充実が求められます。それらをクリアーして専修学校になると、取得した単位が大学と同等と認められます。つまり、大学に編入することができるようになったのです。

各種学校だった弘前市医師会附属看護学校が専修学校になった時、小堀未希さんは３年生でした。専修学校卒業の１期生として、その特徴を最大限に生かせるのは放送大学に編入することです。看護師国家試験に

合格した後も、小堀さんは沢田内科医院に勤務して、糖尿病を中心に勉強することにしました。

１期生で青森県立保健大学に編入して卒業した同期生もいました。これは普通の大学生として卒業したということです。弘前市医師会看護専門学校は働きながら看護師になるという特徴があります。引き続いて、働きながら放送大学を卒業して学位を取得できるということに意義があるのです。

大学卒業ですから、専門科目だけでなく、一般教養科目も勉強しましたし、英語も勉強しました。スクールカウンセリングなど教育に関係する科目も４科目履修しました。看護学校での単位が62単位認められましたので、今年の９月で必要単位数124単位を満たし卒業することになりました。

放送大学を卒業すると「教養学士」という学位が授与されます。正式には、「学士（教養）」ですが。しかし、看護学を主体に勉強してきた看護師としては「看護学士」を取得したいと思うのが自然です。これを授与されるためには、成果論文というのを書いて「大学評価・学位授与機構」というところに認定を申請します。その上で、試験を受けて合格すると「学士（看護）」が授与されます。

糖尿病は、全身の臓器に影響を及ぼしますので、体の全部のことを知っていなければなりません。そこで、看護師が勉強する領域としては最適だと考え、糖尿病を主体にして看護師としてさらに勉強することにしました。沢田内科医院には糖尿病の患者さんがたくさん通院しています。療養指導をしながらたくさんのデータも集めました。これらを基にして、来年３月までに論文を完成させる予定です。その結果を、来年夏には公表できるように頑張っています。

放送大学卒業サプライズパーティー

働きながら放送大学を卒業した小堀未希さんの努力を讃えて、みんなでお祝いする会をやろうと思いました。井上真利子婦長に「お祝いの会をやるから」と言うと、「また、サプライズの会にしますか」と。昨年３月末に、６ヶ月間も私に内緒で準備して開いた還暦の会の第２弾をやろうというのです。10月初めのことでした。

10月の土曜日はすべて予定が入っていました。看護学校３年生も実習がまだ終わっていません。予定がないもっとも近い土曜日は11月９日でした。看護専門学校の入学試験の面接をしなければなりませんが、夜は空いていました。そこで11月９日にパーティーを予定しました。多分、演出は宴会部長の清野法子さんで決まりでしょう。

いつも「嘘をついても必ず破綻するから」と言っていた手前、嘘はつけません。秘密と内緒は嘘ではありません。そこで、「卒業をお祝いして、11月９日夜に食事会をしよう。内緒の食事会だよ」と誘いました。雰囲気からは２人で行こうと思わせるようにしました。決して職員みんなでの食事会だとは言っていませんし、内緒なのは小堀さんに内緒なのであってみんなは知っていました。でも、嘘はついていません。ただ、もっと大事な予定が入ってキャンセルされたのでは大変ですから、時々確認して予定を入れないでねというメッセージを送っていました。

問題は、いつも地味な服装をしている

小堀さんに何とか着飾って来てもらうことです。私の家内は和服で出ましたが、職員はみんな少し着飾って来ますので、主人公がジーンズ姿では写真が撮れません。これを井上婦長に相談すると、「フランス料理の店だし、ドレスとは言わないけど、それなりの服装がいいよ、と言ったら」とアドバイスを受けました。「フランス料理で服装はそれなりだけど、周りは気を使うような食事会ではないから」とも言いました。周りはみんな職員ですから、気を使うことは全くないのです。これも嘘ではありません。

アンパンマンもペロリだ！

その結果が写真の服装です。もう一つの服装も考えたらしいのですが、お母さんから「小学校の父兄参観のお母さんの服装だ」と言われたようで、これにしたようです。それなりの服装で来てくれるのを確認できたのは、パーティーの３日前でした。でも、私はもっと派手な服装を期待していましたが、小堀さんはかなり頑張った結果のようでした。

11月９日当日、小堀さんをタクシーに乗せ会場に向かいました。静かな店の中に入ると、隠れていた職員がクラッカーを持って歓迎です!! いつも落ち着いて見える小堀さんも感激したようです。まず、みんなで写真を撮り「フランス料理の食事会」が始まりました。パーティーそのものもいろいろな企画があり、看護実習を終えた２人の看護学生も巻き込み、みんなで楽しみました。サプライズの会ですので、挨拶の内容を考える暇がなかった小堀さんはやっぱり成長していて、きちんとまとめることができました。

さる９月、医師会看護専門学校に入学して６ヶ月経った准看護学科の学生を対象として、「卒業生からのメッセージ ～夢の実現に向かって～」という、看護師、保健師、助産師として活躍している先輩の経験発表がありました。小堀さんもその１人として講演をしました。この時のスライドの１枚目が、「アンパンマンが看護師に！」という題でした。お祝いのケーキはアンパンマンでしたし、井上婦長手作りのナースキャップを付けたアンパンマンも頂きました。小堀さんは小さい頃からアンパンマンが気に入っていたようです。そうして見れば、顔も何となく・・・・。

ナースキャップを付けたミキパンマン

楽しいパーティーでした。みんなは知ってた「内緒の食事会」でした。サプライズの会は企画する方は１ヶ月もかけて楽しみ、サプライズされる人はその楽しみを瞬間的に感ずることができます。そんなに多くの機会があるわけでもなく、これが最後としましょうと言いましたが、どうなることやら。

齋藤絢介先生が研修

弘大附属病院臨床研修医の齋藤絢介先生が臨床研修に来ました。齋藤先生は１年目を三沢市立病院で研修し、２年目は弘大附属病院で研修しています。今回は、10月１日から１ヶ月間、地域医療研修として私たちの医院で研修しました。青森市出身ですので、津軽弁には全く不自由はしませんでした。

大きな病院で研修すると、高血圧症、高脂血症、糖尿病といったいわゆる慢性疾患を継続して診る機会は多くはありません。でも、全国レベルで見ると、心筋梗塞や吐血などといった大きな病院で見る急性期の病気よりも、私たちの医院に通院するような患者さんが圧倒的に多いのですから、このような病気に対応する能力は必須なわけです。

齋藤先生は非常にたくさんの知識を持ち合わせていました。後は、臨床の現場でそれを実際に応用できるように研修すれば、立派な臨床医になります。今後に期待したいと思います。

今年は、弘大附属病院から２人、国立弘前病院から２人と４人が研修に来ました。１ヶ月間ずつですので、４ヶ月間、研修医と一緒に診療を行いました。通院する皆さんにはご迷惑をお掛けしたこともあると思いますが、若い医師に地域での開業医の仕事を知ってもらうことは大事なことです。私自身がそうでしたが、大きな病院にばかりいると、地域の開業医がどんな医療を行っているか分からないものです。お互いに協力し合って診療することは非常に重要です。その意味でも地域医療研修は大事だと思っていますので、弘大の臨床研修にはできるだけ協力しています。

看護師の新しいユニフォーム

ユニフォームは３年ごとに新しいものに変えています。今回は、今までと違うユニフォームにしました。看護師は「白衣の天使」として小さい女の子からは憧れの的でした。しかし、現在はカラフルなユニフォームが溢れていますので、強く色を付けてみました。

今回のユニフォームは手術室や救急センターでよく見られるものです。上下揃いのものを捜したのですが、いいのがありませんでした。上だけを赤とピンクの間の色として、下は白にしました。ネームプレートをなくして左胸に刺しゅうで名前を入れました。背中には、チーム意識を高めるために、私が書いた「沢田内科医院」をプリントしました。

背中のチーム沢田内科医院

このユニフォームは、ボケっと立っていると全くかっこよくありません。逆に、動いていると一層輝いて見えるユニフォームです。沢田内科医院では、ボケっと立っている看護師はいません。みんなよく動き回っています。ですから、特にこのユニフォームがかっこよく見えるのだと思います。

ちかと ちひろ は 医師会看護専門学校１年生のコンビ

発　　行：　〒036-8261 青森県弘前市茂森新町1-6-4　沢田内科医院　院長　沢田美彦
ホームページ：　http://www.sawada-naikaiin.com/　TEL 0172-37-7755　FAX 0172-37-7788